



Noguchi Times

Vol.
28
2022.5



林 耕次さん(中部徳洲会病院 内科)／2021年12月エクスターンシップ研修 @ハワイ大学クアヒニ医療センター

CONTENTS

Philosophy –私たちの想い–	01
患者様の不安を取り除くために	02
アメリカで注目される『Humanism教育』とは？	03
ONLINEによる教育活動の推進	05
コロナ禍での留学	08

ステロラ基金を通じて	09
日本の食を考える	11
女子栄養大学 奨学金授与式	13
野口留学プログラムについて	14

Philosophy

私たちの想い

患者様優先の医療を目指して

Compassion

-Humanity & Empathy in Medicine-

米国財団法人野口医学研究所について

医師や医学生を始めとした医療従事者を対象に、米国での臨床留学プログラムを提供しています。

これまでに多数の医師・医学生の研修を支援し、患者様の痛みや苦しみに共感し

「私たちに治させて下さい」という精神で寄り添うことができる医療人の育成をしています。

02 野口英世博士の名言

私は貧乏な家に生まれ、小学校しかでていない。
しかし、過去を変えることはできないし、
変えようとも思わない。
なぜなら人生で変えることができるのは、
自分と未来だけだからだ。



患者様の不安を 取り除くために

野口医学研究所は、聖マリアンナ医科大学の協力の下、PPE Portrait Projectを実施しました。



聖マリアンナ医科大学での実施の様子 日本においても、PPE Portrait Projectを広めるべく、聖マリアンナ医科大学にて同プロジェクトが実施されています。

PPE Portrait Project とは？

PPE Portrait Projectとは、アメリカで始まった、医療スタッフの「顔の見える化」を行うことで、患者様と医療スタッフの隔たりを埋めるプロジェクトです。

医療用防護服を身にまとうと、ほとんど顔が見えず、患者様の恐怖心をあおめることが問題視されていましたが、顔写真をつけて患者様と接することで、患者様が安心感を保ち、患者様とのコミュニケーションをより良くすることが報告されています。このプロジェクトは、コロナウィルスの大流行で復活し、米国の病院や介護施設、学校などでも活用されています。

患者様や家族との 「顔の見える関係づくり」

PPE(医療用防護服)の装着は医療従事者へのウイルス感染予防となる半面、顔や表情は見えにくくなります。そのため、閉鎖空間での療養生活に孤独を感じる患者様にとって不安が募る一方です。そこで、聖マリアンナ医科大学では、患者様やそのご家族に安心感を持ってもらうために、「顔の見える関係づくり」を目指し、「PPE Portrait Project」を発足させました。防護服に自分の顔写真ステッカーやバッジを貼り、患者様が医療者を識別しやすくすることで、患者様と医療者の関係性を深めることに成功しました。



実装した看護師の 6割以上が効果を実感

プロジェクトに参加した看護師に対し、実装開始から3か月後に評価調査をしたところ6割以上がその効果と継続の必要性を感じる結果となりました。

プロジェクトに参加した看護師の感想

肯定的な感想

- 『顔が見えることで安心する、うれしい、ホッとするとわれ、患者様に笑顔が見られた。』
- 『患者様とのコミュニケーションのきっかけとなった。』
- 『スタッフ間でもコミュニケーションが取りやすかった。』
- 『写真から会話が始まり、関係性を築くきっかけとなった。』
- 『名前で呼んでもらえるようになった。』

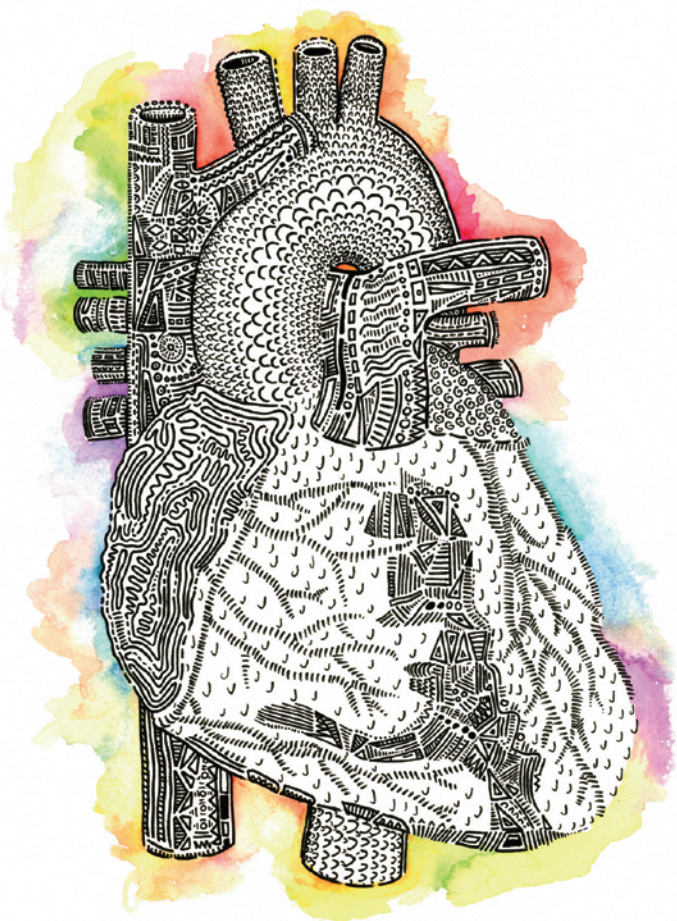
課題を示す感想

- 『(対重症患者での実装のため)患者様の重症度が高く、挿管中や鎮静下の患者様が多く、反応を確認することが難しかった。』
- 『装着することが恥ずかしかった。』

今後は、さらに使用方法を見直し患者様への効果を検証していく予定です。

アメリカで注目される

『Humanism教育』とは？



2018-2019 Featured Artwork | "Rhythm" | Aaron Miller, SKMC Class of 2021

医師や医療従事者としてのレベルを上げるにはどうすれば良いのでしょうか。“医療知識や技術を極める”のではなく“ハートを育てる”ことの重要性に着目したのが「Humanism教育」です。今回はその一環としてトーマス・ジェファソン大学(TJU)で行われているプログラムについてご紹介します。

どんなことを学ぶの？

Artを通じHumanity(人間性・思いやりの心)を育む教育プログラムとして、多くの学生に人気があるのが「Asano Humanities & Health Certificate」。TJUと野口医学研究所とのコラボレーションが叶い、2017年に立ち上がりました。

教育プログラムの狙いは？



“Humanity”の育成

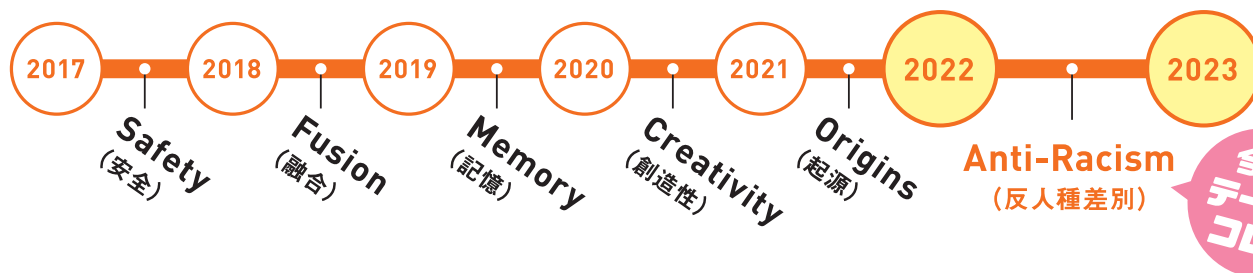
(思いやり・人間性)

TJUでは単なる座学ではなく、絵画や音楽、写真などアートの側面から学びを通じて“Humanity”(思いやり・人間性)を育んでもらおうという取り組みが進んでいます。

キーワードは「患者様優先の医療」

米国財団法人野口医学研究所は『Humanity & Empathy in Medicine(患者様優先の医療)』を理念として掲げ、患者様の痛みや苦しみに共感し、「私たちに治させてください」という心で寄り添うことのできる医療人の育成に貢献しています。野口研修プログラムの卒業生は、現在も様々な現場で“患者ファースト”の医療を実践し、第一線で活躍されています。

Asano Humanities & Health Certificate



参加者には毎年テーマが与えられ、テーマに沿った課題を提出すると
Asano Humanities & Health Certificateを取得できます。

→ プログラム修了者数
累計 **320人**

Asano Humanities & Health Certificateを取得するためには？

STEP 1 イベント参加

毎年与えられたテーマに沿って、約100個のイベントが行われます。その中で最低8つのイベントに参加します。

写真展覧会

音楽会

パネルディスカッション

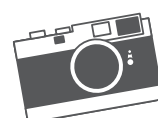
絵画教室

アートセラピー



STEP 2 レポート提出

参加したイベントのうち4つ以上のイベントでレポートを提出します。
レポートの提出方法は絵や写真、詩など様々な形が選択できます。



ヒューマニズム教育 参加者の声



浅野プログラミングは、様々な形式で多様なトピックを提供しており、楽しいだけでなく多くの学びがありました！これらのイベントを企画し宣伝するために、チーム全員が真剣に取り組めました。



バーチャルでやるのはとても楽しかったし、自宅のコンピューターからキャンパスの活動に参加しているように感じました。これらのイベントを通じて、多くのクラスメートや教授など、様々な人々に会うことができました。



私が参加したイベントの多くはユニークで、今まで考えもしなかった話題に触れることができました。



私たちのカリキュラムを超えて人文科学を探索する素晴らしい機会をありがとうございます。プログラム全体が非常によく構成されていると思いましたし、このようなプログラムのおかげでTJUの一員であることを誇りに思っています。



ONLINEによる 教育活動の推進

医学生
対象

Medical Student Online Activity

毎年3月に実施していたトーマス・ジェファーソン大学における『Clinical Skills Program (CSP)』ですが、今年度は新型コロナウイルスの影響により現地で海外研修を行うことができませんでした。そのため、CSPの代わりとして医学生用のオンラインプログラム『Medical Student Online Activity』を開催しました。

第1回 2021.3.27(土) 9:00-10:00

第2回 2021.4.24(土) 9:00-10:00

Small group presentation and discussion

以下トピックについて、TJUの医学生とディスカッションを行いました。

- USMLEの勉強方法について
- 新型コロナウイルスによる大学生活の影響について
- 自国の医学教育の課題とは？
- 自国の患者と医師の関係性についてどう考えるか？



ファシリテーター1:

Takami Sato, M.D., Ph.D.

Professor
Director, Metastatic Uveal Melanoma Program
Thomas Jefferson University
Board of Trustees
Noguchi Medical Research Institute



ファシリテーター2:

Wayne Bond Lau, M.D.

Professor
Assistant Dean, Office of Student Affairs
Director, Jefferson China Center
Associate Director, Jefferson Japan Center
Thomas Jefferson University



参加者の声

ファシリテーターの先生がとても楽しく盛り上げてくださり、日米の医学教育の違いや“successful career”についての考え、モチベーションの保ち方などの建設的な意見交換ができた。

第3回 2021.7.24(土) 9:00-10:00

Lecture:

TJUにおけるJeffHOPEの活動(無料診療)について

社会的に恵まれない方を対象に医学生が行うボランティア診療“JeffHOPE”について、Dr. Motleyをファシリテーターとし、TJUの医学生より活動内容を紹介して頂きました。



ファシリテーター:

Robert J. Motley, M.D.

Professor Clinician Educator
Vice Chair, Community Medicine
Thomas Jefferson University



参加者の声

日米で状況は大きく違いますが、米国の医学生は恵まれない人々に寄り添いたいという精神と実際に行動をする力があるということを知り、大きな励みになりました。



JeffHOPEとは？

TJUの医学生が運営するボランティア組織で、経済的理由により十分な医療が受けられていないホームレス等の生活困窮者を対象に、無料の診療所を通じて医療を提供しています。アメリカは一般的に、医師免許を取得していない場合、医療行為に携われませんが、JeffHOPEは特例として指導医総監のもと、医学生が一医療人として患者様と向き合う実践の場となっています。TJUの多くの医学生は、JeffHOPEで現場経験を数多く積むことで即戦力を学生のうちに身に付けています。



野口医学研究所は2021年から、選考会に合格し米国臨床研修を志す医師・医学生の方を対象に、新たなオンラインプログラムを開催することとなりました。プログラムは、医学生の方を対象とした『Medical Students Online Activity』と、医師の方を中心とした『野口オンラインプログラム』と、卒後1年生から指導医の方を中心とした『野口グランドラウンド』から構成されています。



医師
対象

野口オンラインプログラム

新型コロナウイルスの影響により、2020年度から研修生を留学プログラムに送り出せない状況が続いています。そのような状況でもモチベーションを維持できるように、オンラインで勉強ができる講座を用意しました。その一つが、「野口オンラインプログラム」です。講師には海外の教授や、指導医を招き、様々な角度から臨床留学について講演していただきました。

第1回 2021.2.13(土) 9:00-10:00

CV&PSの書き方
ーアメリカ医学研修マッチングに応募する際、
どのようなPersonal Statementが目に残るのか？ー



講師：
Rika Nagakuni O'Malley, M.D., FACEP
Associate Director of Central Emergency Medicine
Grand Strands Medical Center, Myrtle Beach, SC



参加者の声

新型コロナウイルスなど逆風が吹き続けていますが米国留学へ向けたモチベーションが一層高まりました。

第2回 2021.5.8(土) 8:00-10:00

Essential Cardiac Examination Skills
including Case Studies
ケーススタディを含む本質的な心臓検査



講師：
Joseph F. Majdan, M.D., FACP, FCPP
Associate Professor of Medicine
Director of Clinical Proficiency Remediation
Sidney Kimmel Medical College at Thomas Jefferson University



参加者の声

今日のような講義に参加することで、もっと勉強したくなりました。

第3回 2021.6.12(土) 8:00-9:00

Addressing End of Life Issues
in American Medicine
アメリカ医療における
終末期の問題への取り組み



講師：
Joseph F. Majdan, M.D., FACP, FCPP

Associate Professor of Medicine
Director of Clinical Proficiency Remediation
Sidney Kimmel Medical College at Thomas Jefferson University



参加者の声

終末期医療について日本の大学で体系的に学べる機会はありませんが、今回の講義を通して実際の現場での声かけや告知についてどのように行ったら良いのかが大変よく理解できました。

第4回 2021.8.14(土) 9:00-10:00

Update on Residency Training
in the US
臨床留学までの経緯、ハワイ大学での
臨床研修の実際、試験制度の変更に
対する対応策等



講師：
Nobuhiko Kimura, M.D. (木村信彦)

Internal Medicine Resident PGY-2
Internal Medicine Residency Program
University of Hawaii



参加者の声

- 直近で臨床留学をした方の具体的なアドバイス、苦労談、経験を聞くことができて非常に参考になりました。
- 踏み出す勇気をいただきました。

第5回 2021.9.25(土) 9:00-10:00

USMLEの勉強方法および
対策について



講師：
Charles A. Pohl, M.D.

Chancellor of Center City Campus
Executive Director of the Jefferson Japan Center
Vice Dean of Student Affairs and
Professor of Pediatrics
- Sidney Kimmel Medical College at Thomas Jefferson University



参加者の声

- アメリカ人医師であり医科大学の学長から直接お話を伺えたことは大変良い機会になりました。
- 定期的に開催いただき、モチベーションの維持に大変役立っております。

「生涯教育」という概念を基に、卒後1年～指導医まで全ての医師を対象としたオンラインセミナーの事です。「学び」は学生だけのものではなく、急激に変化する時代に取り残されないように、生涯を通して行う必要があります。当セミナーでは、月に一度、現役の医師がスキルアップを図れるよう、旬の話題をテーマに、現場で実践できる内容についてお話ししています。

第1回 2021.5.12(水) 12:30-13:30

心不全再入院を防ぐには。

～心不全手帳を利用した患者教育「セルフケア」～



講師：平岡栄治
東京ベイ浦安市川
医療センター
副センター長
総合内科部長

心不全の再発症を予防するために、患者さんに持っていただく「心不全手帳」。心不全手帳の存在自体は知っているものの、十分に活用していない医師が多いのが現状です。パンデミック状態に増加する心不全患者を減少させるためには、患者自身のセルフケアを教育することが非常に重要です。日常的にどのように手帳を活用し、患者教育を行うかを学び直しましょう。

第2回 2021.6.9(水) 12:30-13:30

新型コロナウイルスを通じてEBMを再考する

～キーワードは「NEBNEGからSEBSEGへ」～



講師：斎藤浩輝
聖マリアンナ医科大学
横浜市西部病院
救命救急センター

コロナ禍におけるEBMはどのように確立されていたのでしょうか。前例のない感染症と対峙するにあたって、「Uncertaintyとどう戦うか」が医療人にとっては常に課題となります。コロナ前は実存するEBMをいかに的確に利用するかという考え方が主流でしたが、コロナによってEBMが不明確な状態で治療を行わなければならない状況が出現しました。これからは最前線に立つような医療者も、臨床研究の場に興味・関心を持ち効果的・迅速に治療法を確立する必要があります。

第3回 2021.7.14(水) 12:30-13:30

医師が知っておいた方がいい「歯と口の話」～健康増進と医科歯科連携～



講師：松本朋弘
練馬光が丘病院
総合救急診療科
総合診療部門

厚生労働省で発表している「20本以上歯が残っている80歳は51.2%」という数字は実臨床と合っていない?! 実態はどのようなものなのでしょうか。「歯」を大切にすることは個人の健康の面でも、長期的に見ると国の医療費の面でも、非常に重要です。口腔ケアについて学び直し「ホスピタリストとして患者ケアを極める」そんなきっかけとなれば幸いです。

第4回 2021.9.8(水) 12:30-13:30

点と線 ～病歴・診察から結ぶ～



講師：金城紀与史
沖縄県立中部病院
総合内科

院内カンファレンスを想定し、主に医学生・初期研修医を対象とした症例検討を行います。症例一つ一つの点と点を線で結ぶ方法とは? 20代～70代の様々な症例から、病歴を掘り下げる基礎的なポイントを伝授。明日から使える実践的な学びをしましょう。

第5回 2021.10.13(水) 12:30-13:30

COPD増悪に対峙する

～step beyond ABC approach～

COPD(慢性閉塞性肺疾患)の自然経過の中で起こる「増悪」について焦点を当てました。COPDの増悪は、「QOLの悪化」「呼吸器機能の悪化」「生命予後の悪化」など様々な負の連鎖を引き起こします。そもそも増悪の定義は何なのでしょう。症例を用いながら鑑別方法や治療法、回復後の患者教育について考えましょう。



講師：江原淳
東京ベイ・浦安市川
医療センター
総合内科、呼吸器内科医長

第6回 2021.11.10(水) 12:30-13:30

ジェネラリストにも知っていて欲しいがん薬物療法の基本

抗がん薬治療を行う上で、安全な抗がん薬治療は基本的には存在しないことを患者に理解してもらうことが非常に重要です。がんの薬物療法について、「抗がん薬と一般薬との違い」や「抗がん薬の効果と副作用」「添付文書について」等、ポイントをお伝えします。



講師：石黒洋
埼玉医科大学
国際医療センター
乳癌外科 教授

第7回 2021.12.8(水) 12:30-13:30

DM経口薬の使い方

糖尿病は患者数が多く、どの専門分野においても日常的に診療を求められることが多い疾患の一つです。糖尿病患者を診る際に、単に身体状況や検査値の状況から判断していませんか? 相手の性格ややる気等をきちんと見極めていませんか? 患者のやる気は糖尿病のコントロールを継続してもらう上でとても重要です。様々なケーススタディを元に、糖尿病について一人ひとりに合わせた診療を行うポイントを一緒に考えてみましょう。



講師：片岡仁美
岡山大学大学病院
ダイバーシティ推進センター教授

コロナ禍での留学



野口医学研究所は、新型コロナウイルスの感染拡大により一旦留学活動を中止していましたが、2021年12月より、ハワイ大学のエクスターンシップ研修が再開しました。通常の留学とは異なり、コロナ禍における規制がある中でどのような研修が行われたのでしょうか。不安だったことや大変だったことを研修生にインタビューしました。



臨床留学に興味があり、周囲の環境が許すのであれば是非勇気を出して参加してみることをお勧めします。

福澤文駿先生
千葉大学医学部附属病院
総合診療科 専攻医

Q. 渡米時(日本出国時/ハワイ到着時)大変だったことは何ですか？

渡米時には、出発前のPCR検査はもちろんのこと、寮に入るまでの隔離期間を過ごす宿舎の手配、隔離期間の変更に伴う航空券の取り直しなど、事務作業が平時と比較して多かったのではと感じました。また、PCR検査を受けるタイミングが求められた期間内におさまっているか、PCR検査の結果が出るまでの時間を考慮して逆算して予定を立てるなど、確認や気を配るべき項目が多かったように感じました。

Q. 留学準備、または留学に際し、一番不安だったことは何ですか？

事務手続きや検査等がうまくいくかどうかという不安はありましたが、渡米前に野口医学研究所から、スケジュール調整、寮の手配、ハワイ大学で規定されたガイドラインや入国情報の提供など、手厚いサポートをいただき、無事入国、研修開始できました。帰国に際しては、当時米国で感染者数も多く、無症状だったものの、帰国前のPCRが陽性になってしまったらどうしようなど、コロナ禍ならではの不安はありました。

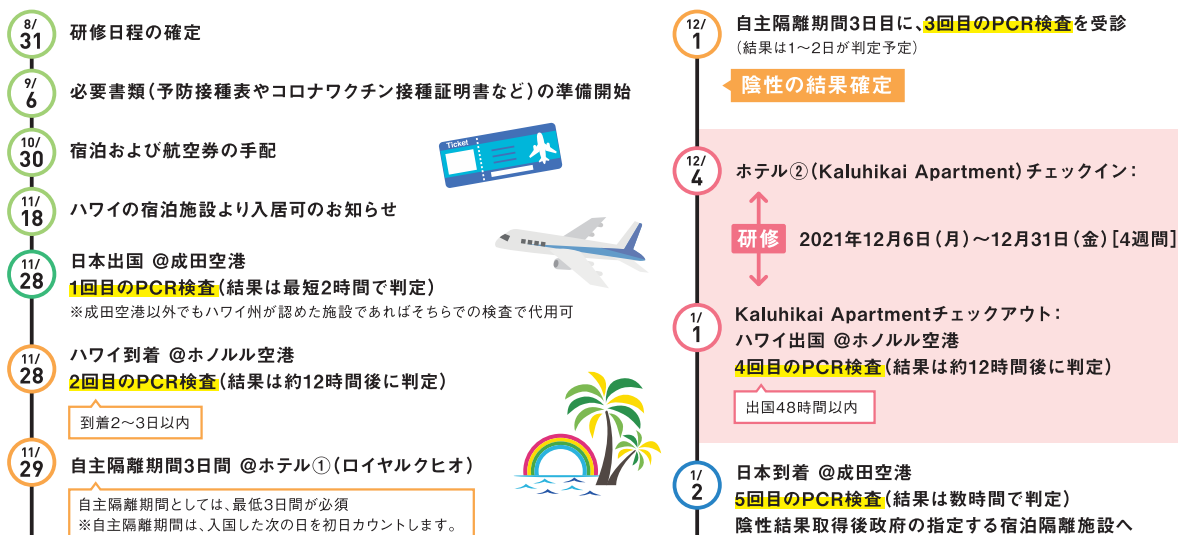
Q. 実際に行って見てどうでしたか？

下準備が大変でしたが、たどり着けばなんとかなる、と感じました。野口医学研究所をはじめ、助けて下さる方々が周囲におり、いつでも相談できる環境であったことが大きかったと思います。不安に思っていた言語や生活面も、現地で生活するうちに多少なりとも慣れ、レベルアップしたことが感じられ、与えられた多くの機会を生き、米国の医療に慣れ親しむことが出来、自信にも繋がりました。

Q. コロナ禍の日本の病院とハワイの病院の違いはありましたか？

新型コロナウイルスに対する加療はup-to-dateをもとに行われており、日本の医療と大差はないと感じました。市中の感染対策は日本と比較して甘いと思われる面(観光客がマスクをしていない等)も散見されましたが、院内スタッフの感染対策に関してはゾーニング、手指衛生、PPE着用等徹底されており、院内感染の発生等もありませんでした。

Schedule スケジュール





INDONESIA
01

バタム島の市民とバタム島の市長（ムハンマド・ルディ氏）、その他市の職員や野口関係者

コロナ禍で急増した困窮家庭支援、子どもの貧困解消に向けて

「インドネシア バタム島」に 総額300万円の食糧支援

インドネシア
バタム島

野口医学研究所は、一般社団法人ステロラ基金を通じて、新型コロナウイルスの感染拡大により、困窮家庭が増加し続けるインドネシアのバタム島の島民に対して食糧（総額300万円相当）を支援しました。

野口医学研究所は、持続可能な開発目標（SDGs）の一環として、「子どもの貧困解消・自立支援」を主たる活動目的とするステロラ基金を、昨年11月に設立しました。今回は、バタム島における「困窮家庭の支援および子どもの貧困解消と自立支援」の一助となることを目的として、緊急の食糧支援を実施しました。10月22日、23日の2日間にわたり、バタム島のムハンマド・ルディ市長と職員の皆様とともに、延べ2,000パケット（内容：米10kg・調理用油2L・インスタントラーメン10個・砂糖1kg・コンデンスミルク1L・イワシ缶1個・紅茶1箱・ビスケット1箱）を島民の方々にお渡ししました。

右バナー和訳：

新型コロナウイルスの援助 2,000パケットの食糧
バタム島の経済発展を支援
受け取り代表者：バタム島のムハンマド・ルディ市長
寄付者：野口医学研究所 東京、日本





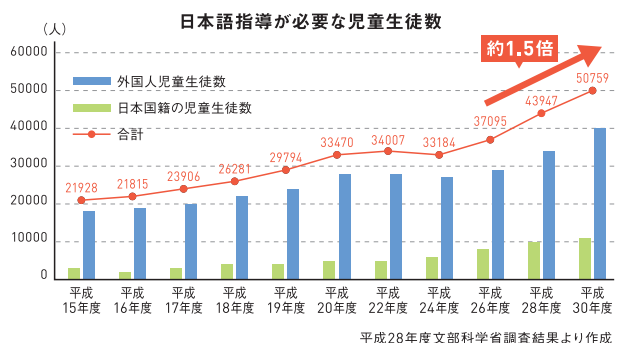
KAWASAKI 02

小学生～高校生に必要な日本語のレベルアップ強化

外国国籍の子どもたち への学習支援

日本に住む外国人は年々増加傾向にあります。その子どもたちの高校進学率は深刻化しています。どんな国籍の子どもであっても日本で自立して生活する為には継続的な学習支援が必要です。野口医学研究所は、ステロラ基金を通じて2021年4月より外国国籍の子ども達の学習支援を開始しました。

「外国につながる子どもの学習支援プロジェクト」として川崎市の多文化活動連絡協議会に、年間総額150万円の寄付を行いました。



今後ステロラ基金を通じて行いたいこと

米国財団法人野口医学研究所は、40年間に亘り医学教育 & 交流活動を行い、日本の医療に貢献して参りました。私は新しく設立されたStellora Fundを通じ、これまでの“医療支援”の枠を超えて、子どもや若者の生活に目を向け、経済的に苦しい人々を支援したいと切に願っています。これまでに、貧困地域の支援や地域組織との連携による教育支援等に取り組みました。今後も、一人でも多くの子どもたちの“天性の才能 (gift)”を最大限に活かせる機会を作りたいと考えています。“子ども達は私たちの未来である”という考えの基、一人ひとりがかけがえのない存在として輝けるような健康的な生活環境づくりを目指します。

一般社団法人ステロラ基金
代表理事 ステロラ・スノヨビ

全国学校給食甲子園

日本の食



を考える

野口医学研究所は約40年間、日本の医療について考え、活動してきました。そんな中、管理栄養士の社員を中心に、そもそも医療を受けなくてもよい健康な体を作るためには食事が重要なのでは？という“予防医学”の概念を大切に、食における様々な活動も積極的に行うようになりました。その一部をご紹介します。



野口医学研究所は、“医食同源”を尊重し、
管理栄養士の育成や食に関するイベントを支援しています。

■ 第16回給食甲子園

第16回全国学校給食甲子園の表彰式が、12月4日、午後1時から東京・プレスセンタービルの日本記者クラブ大ホールと12代表のサテライト会場を結ぶオンラインで開催され、その模様は、YouTubeで実況中継されました。今年は全国の学校栄養士（栄養教諭および学校栄養職員）1,355校から献立内容と食育活動などの応募シートが提出され、選考が行われました。昨年に引き続きコロナ禍で調理コンテストは行われず、書類審査により都道府県代表、ブロック代表、決勝戦12代表を選定し、この日、最終審査で優勝・準優勝・特別賞などを選定して発表しました。

■ 野口医学研究所賞（野口医学研究所は優秀賞を選出）

今回の表彰式に先立つ最終審査では、株式会社野口医学研究所の執行役員・関川幸枝が実行委員として選考に参加しました。1,355校の応募の中から、九州・沖縄ブロックの佐賀県白石町学校給食センターを【準優勝：野口医学研究所賞】に選び、株式会社野口医学研究所創業者浅野嘉久から賞状を授与いたしました。当社は「ここに寄り添う〔美と健康〕を提供し、人々を笑顔にする」を企業理念として掲げています。本大会が子どもたちの健やかな成長と笑顔のある毎日につながることを願います。

全国学校給食甲子園とは？

学校給食甲子園は、全国の学校給食で提供されている献立を競う大会を通じて、食育の重要性を啓蒙しながら地産地消の奨励を目的として毎年開催されています。第16回（2021年）大会では、出場校1,355校に対し合計で4回もの厳正なる審査を行い、12校が決勝進出、更にその中から優勝、準優勝、他各賞が選出されました。日本は、世界で唯一「食育基本法」で「食育」が定義されている国です。

食育基本法では、「食育は生きるうえでの基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるべきもの」と位置付けています。特に学校給食は、子どもたちの心身の健康を育むものとして大きな役割を担ってきました。この大会を通じて、食育の重要性と日本の学校給食の素晴らしさが、日本だけでなく世界中に広まることを祈っています。





白石町給食センター 栄養教諭 川田孝子先生(前列左から4番目)、調理員 古賀綾子さん(前列左から3番目)、白石町中学校職員の方々、他



受賞者へのコメント

私が最初に給食を食べたのは72年前、当時は脱脂粉乳とトウモロコシの粉が入ったパンが主流でそれは貧相なものでした。滋賀県白石町の川田さんが作られた給食は地元の食材をふんだんに使い彩りも豊富で栄養価も満点。そんな工夫が施された給食をぜひ食べに行きたいです。この度はおめでとうございます。

野口医学研究所 創業者 浅野嘉久

野口医学研究所賞として 佐賀県白石町 学校給食センター準優勝！

白石町学校給食センターを選んだ理由

地場産物の大豆からインドネシアの「テンペ」を使用したユニークさ、色彩豊かな給食に大変魅力を感じました。

株式会社野口医学研究所 執行役員
全国学校給食甲子園 審査員
関川幸枝



献立(食数1,060食)

しろいしテンペ入り混ぜ御飯／さが生まれ牛乳／
唐津マダイの利休焼き／有明の磯香和え／煮じゃあ／佐賀みかん

エネルギー:669kcal／たんぱく質:31.9g(たんぱく質:19%)／
脂質:18.1g(脂質:24%)／カルシウム:426mg／マグネシウム:169mg／
鉄:4.2mg／亜鉛:3.3mg／ビタミンA:374μgRAE／
ビタミンB1:0.57mg／ビタミンB2:0.40mg／ビタミンC:44mg
食物繊維:8.7g／食塩相当量:2.0g

献立のポイント

栄養教諭: 川田孝子さん / 調理員: 古賀綾子さん

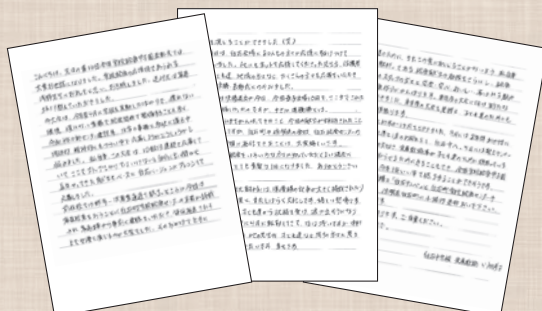
「しろいしテンペ」を、鉄分の多いひじきや食物繊維が豊富なごぼう等と甘辛く煮て、地場産の米「ヒノヒカリ」に混ぜ込んだのが「しろいしテンペ入り混ぜごはん」です。「煮じゃあ」は秋の収穫に感謝し奉納される「おくち」の行事食。白石町の家庭ではあかがい(もがい)を入れるのは特徴で、町の特産品「白石れんこん」も使います。「まだいの利休焼き」には、佐賀県北部の飯屋湾で養殖されたまだいを使用。「有明の磯香あえ」は、町内産のキャベツと佐賀市富士町で収穫されるほうれんそうを「佐賀のり」で有名な有明海産の焼きのりであえ、野菜が苦手な子どもたちでも食べやすいよう工夫しました。デザートは有明海沿岸の温暖な気候で育つビタミン豊富な「佐賀みかん」です。

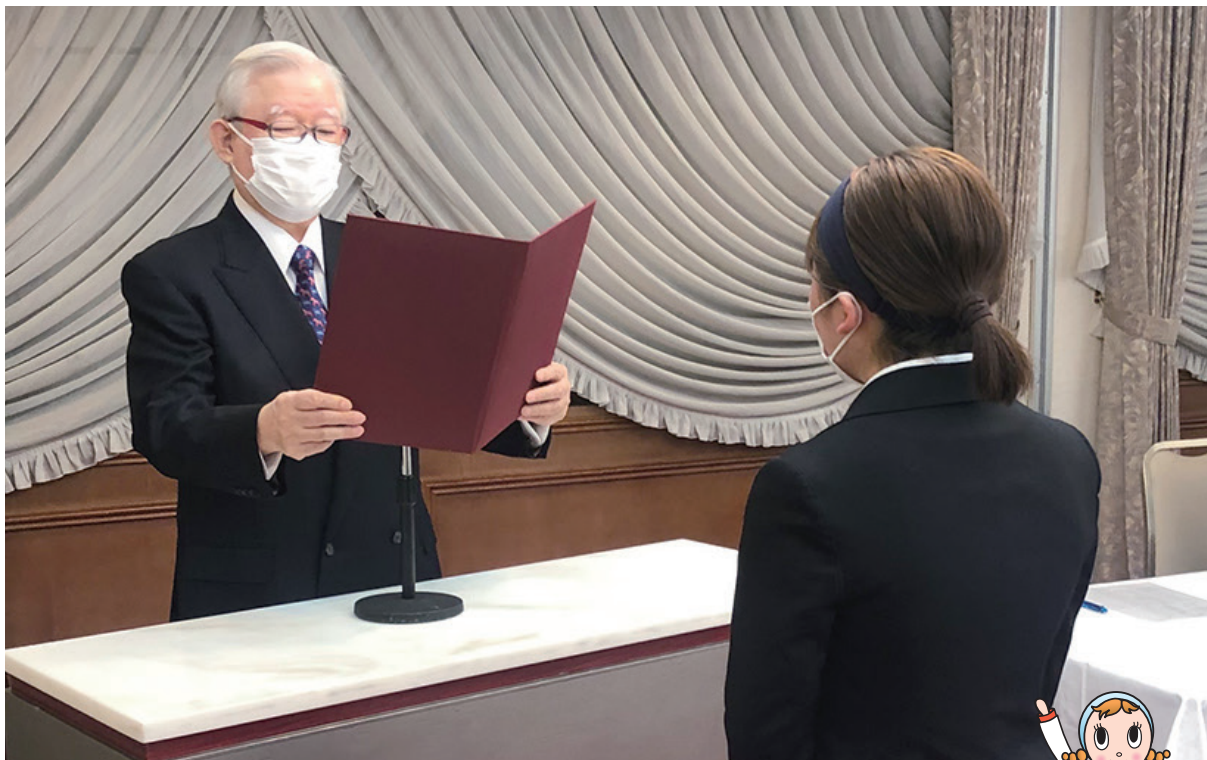
知ってる？

日本の学校給食は世界一！

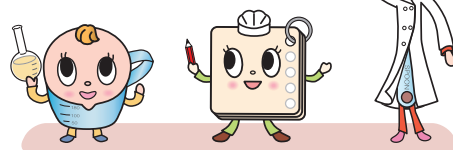
日本の学校給食は、学校栄養士が献立を作り、家庭で摂る栄養素量を加味して、低エネルギー、低塩分、低脂肪に抑えられた摂取基準が設けられています。家庭で不足しがちな栄養素が補充されるように計算されているので、理想的な献立を毎日食べることができるのです。日本の子どもに肥満児が少ないのはこの様なきめ細かい学校給食による栄養管理が行われているからなんですね！

白石町学校給食センターの方から 受賞に関する感謝の お手紙をいただきました。





女子栄養大学 奨学金授与式



米国財団法人野口医学研究所は、女子栄養大学・駒込キャンパスに於いて「第9回野口医学研究所奨学金」を16名の学生に給付しました。この奨学金は、女子栄養大学並びに女子栄養短期大学部、香川調理製菓専門学校の経済的理由により修学が困難な学生に対し、支援の手を差し伸べることを目的とした基金です。今回の授与式は、マスク着用、手指の消毒、ソーシャルディスタンスの確保等、新型コロナウイルスの対策を厳重に行い、開催致しました。

野口医学研究所は栄養士や管理栄養士等、食に関するプロを目指す学生の夢や希望を叶えられるよう、今後も応援してまいります。

■ 授与式の様子

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によって経済的に困窮する学生が増えたようです。奨学生からは「奨学金があれば、本来アルバイトをするはずだった時間の大半を学業に振り向けることができるので、本当に助かります。このコロナ禍も良い経験と捉え、社会に出たら食を通じて世の中に貢献していきたいと思います」等心強い声を沢山いただきました。



奨学金証書の授与(野口医学研究所 創立者 浅野嘉久)

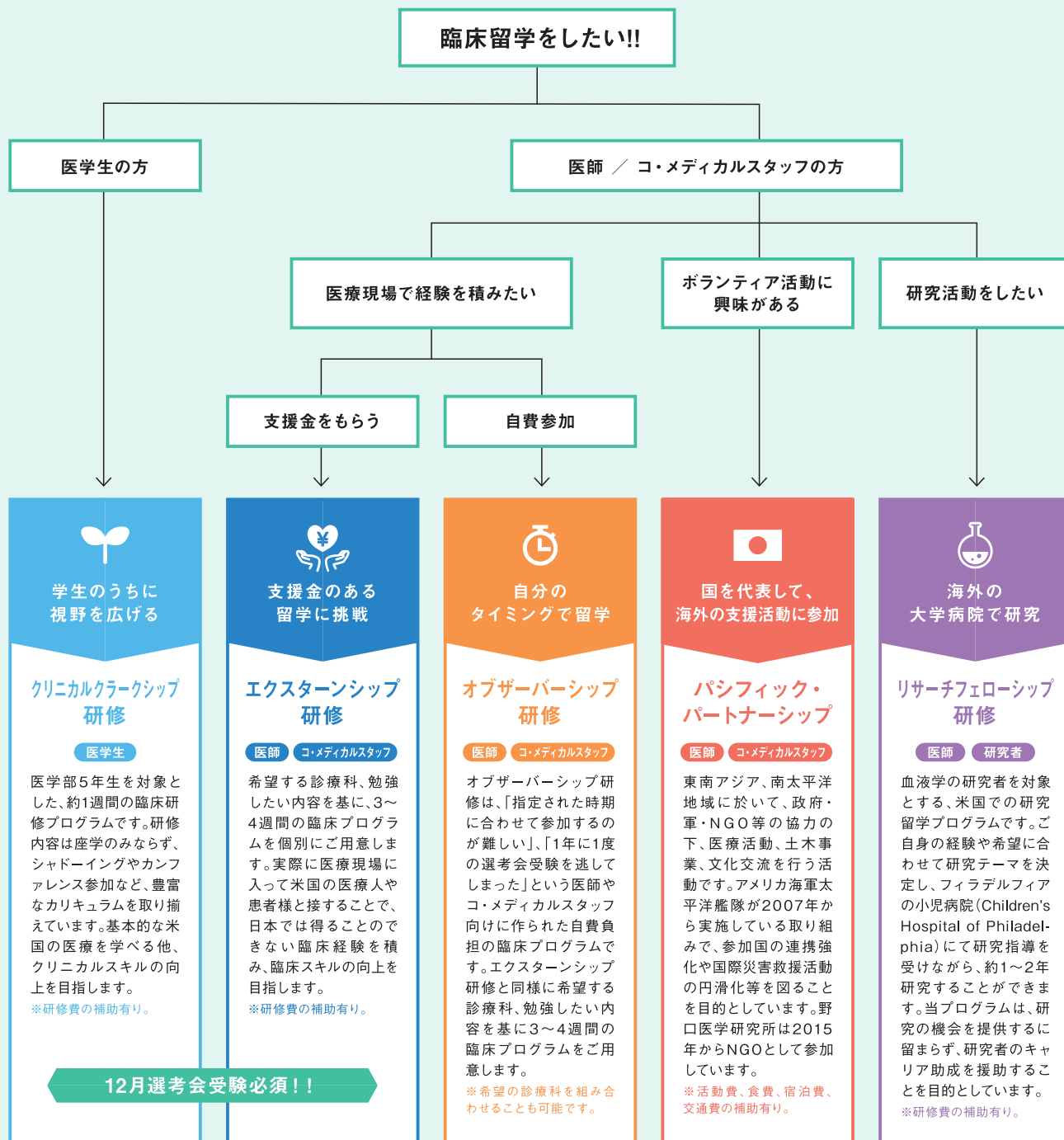


受賞者14名(上段)、香川明夫理事長(中央)、染谷忠彦常任理事(中央右)、浅野嘉久(中央左)

※一時的にマスクを外して撮影しました。

野口留学プログラムについて

野口医学研究所では、米国への留学を希望する医師、医学生に対し、臨床留学プログラムを提供しています。マッチングを希望するだけでなく、アメリカの医療現場を見学したい方、医療に関する研究に携わりたい方等、様々な対象者に応じて、その目的が達成できるプログラムを用意しています。





Noguchi Times

Vol.28

発行日：2022年5月

編集：〒105-0001東京都港区虎ノ門1-12-9

スズエ・アンド・スズエビル4階

TEL.03-3501-0130

米国財団法人野口医学研究所

<http://www.noguchi-net.com>